

## 第5章 実現に向けて

### 5-1 区民・事業者・行政の役割

取組の推進体制と主体の役割

計画の進行管理

### 5-2 協働により実現するみどりのイメージ

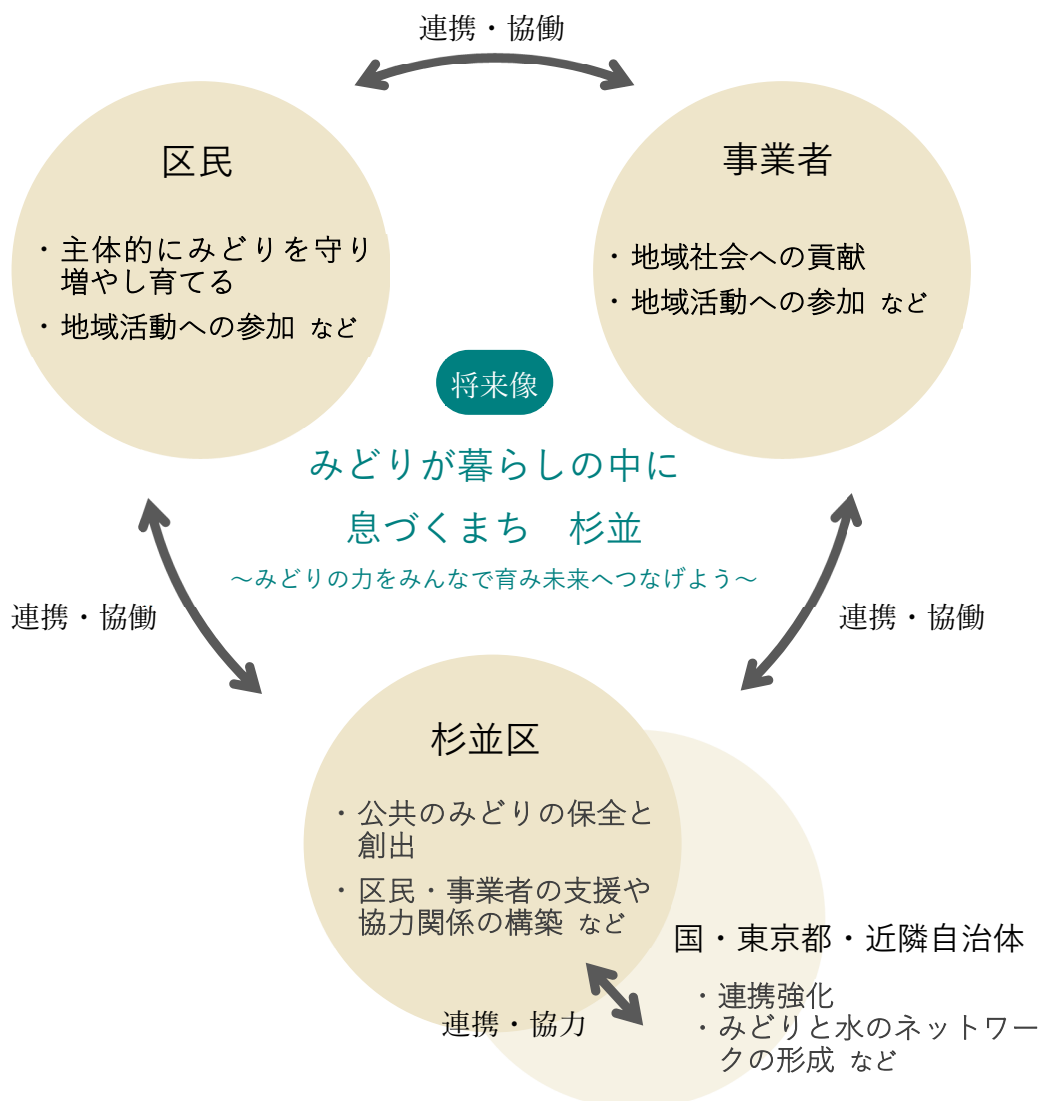
「住宅街」「商店街」「屋敷林・農地」「公園」

「学校」「河川」「道路」のみどり

## 5-1 区民・事業者・行政の役割

### 取組の推進体制と主体の役割

本計画は、区民（町会・自治会、商店会、地域活動団体等を含む。）、事業者（教育機関、研究機関等を含む。）、行政（杉並区以外の国・東京都・近隣自治体等を含む。）などの多様な主体が、それぞれの役割を認識し、連携・協働しながら進めます。各主体が相互に補完し合い、みどりの保全・創出を着実に進めることで、持続可能で魅力あるまちづくりを実現します。



### [区民]

- ・ 地域のみどりに目を向け、みどりの大切さを理解します。
- ・ 自宅周辺や地域のみどりを守り、育て、増やす活動に積極的に関わります。
- ・ 地域のみどりに関する活動に参加することで、地域住民とのつながりを深め、活動を通じてみどりへの関心を高めます。
- ・ 地域活動団体同士が連携し、協力体制を築き、情報を共有することで、より効果的なみどりの取組を展開します。

### [事業者]

- ・ 区の施策と深く関わる主体であるため、本計画の趣旨を理解した上で、区と連携しながらみどりに関する取組を実践します。
- ・ 区民や地域活動団体等と連携し、みどりに関する活動の支援や実践を通じて、地域のみどりの保全、創出などの取組に貢献します。
- ・ みどりに関する環境教育を通じて、次世代の担い手及び活動を支援する人材を育成します。
- ・ 教育・研究の立場から本計画の趣旨を理解し、みどりの取組に関与することで、計画の実効性を高めます。

### [杉並区]

- ・ 区は、庁内の連携のもと、公園・街路樹・公共施設などのみどりを保全、創出し、本計画を推進する主体の中心として、積極的に取組を進めます。
- ・ 区民、地域活動団体、事業者などによるみどりに関する取組を支援し、様々な主体を結びつける役割を果たすことで、関係者間の相互理解と協力関係を築きます。
- ・ 国・東京都・関係自治体との情報共有や協議を通じて、みどりに関する連携を強化し、みどりと水のネットワークの形成を図ります。

### [国・東京都・近隣自治体]

- ・ 区との情報共有や協働を通じて、みどりの保全・創出に関する取組を広域的に推進します。
- ・ 国・東京都・近隣自治体が管理する公園・道路などの施設や空間について、区と連携してみどりと水のネットワークの形成を推進します。

## 計画の進行管理

本計画の進行管理は、PDCA サイクル及びOODA（ウーダ）ループにより行います。

みどりの施策には、中長期的な視点が欠かせないため、事業の継続的な改善に取り組めます。

- [Plan（計画）] 多様な主体の意見を取り入れながら区が計画を立案・改定
- [Do（実行）] 多様な主体が連携しながら取組を実施
- [Check（評価）] みどりの実態調査等により進捗状況や成果を点検・評価
- [Action（改善）] 多様な主体と連携しながら計画内容や取組の見直しを実施

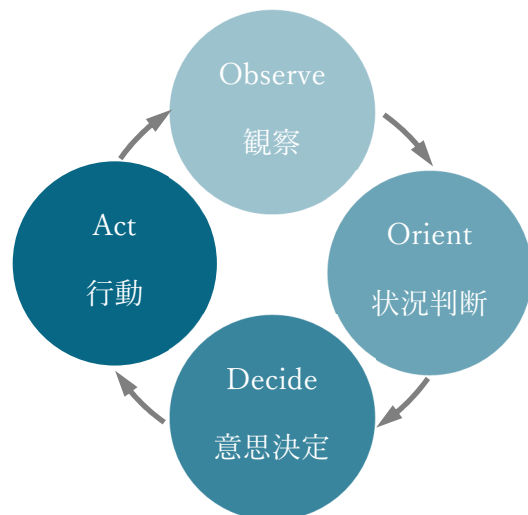
加えて、気候変動による猛暑・豪雨への対応や、社会状況の変化による物価高騰への対応、利用者ニーズの変化による公園管理のあり方などは、短期的にもスピード感をもって対応していきます。

- [Observe（観察）] 状況や環境の変化を客観的に把握
- [Orient（状況判断）] 観察した情報を基に状況を判断
- [Decide（決定）] 具体的な行動方針を決定
- [Act（行動）] 決定した行動を実行



PDCA サイクル

- [中長期的な施策の改善]
- ・屋敷林や農地の保全施策
- ・公園施設の改修
- ・環境学習 など



OODA ループ

- [短期的な施策の改善]
- ・公園利用ルール
- ・公園施設の維持管理 など

## 5-2 協働により実現するみどりのイメージ

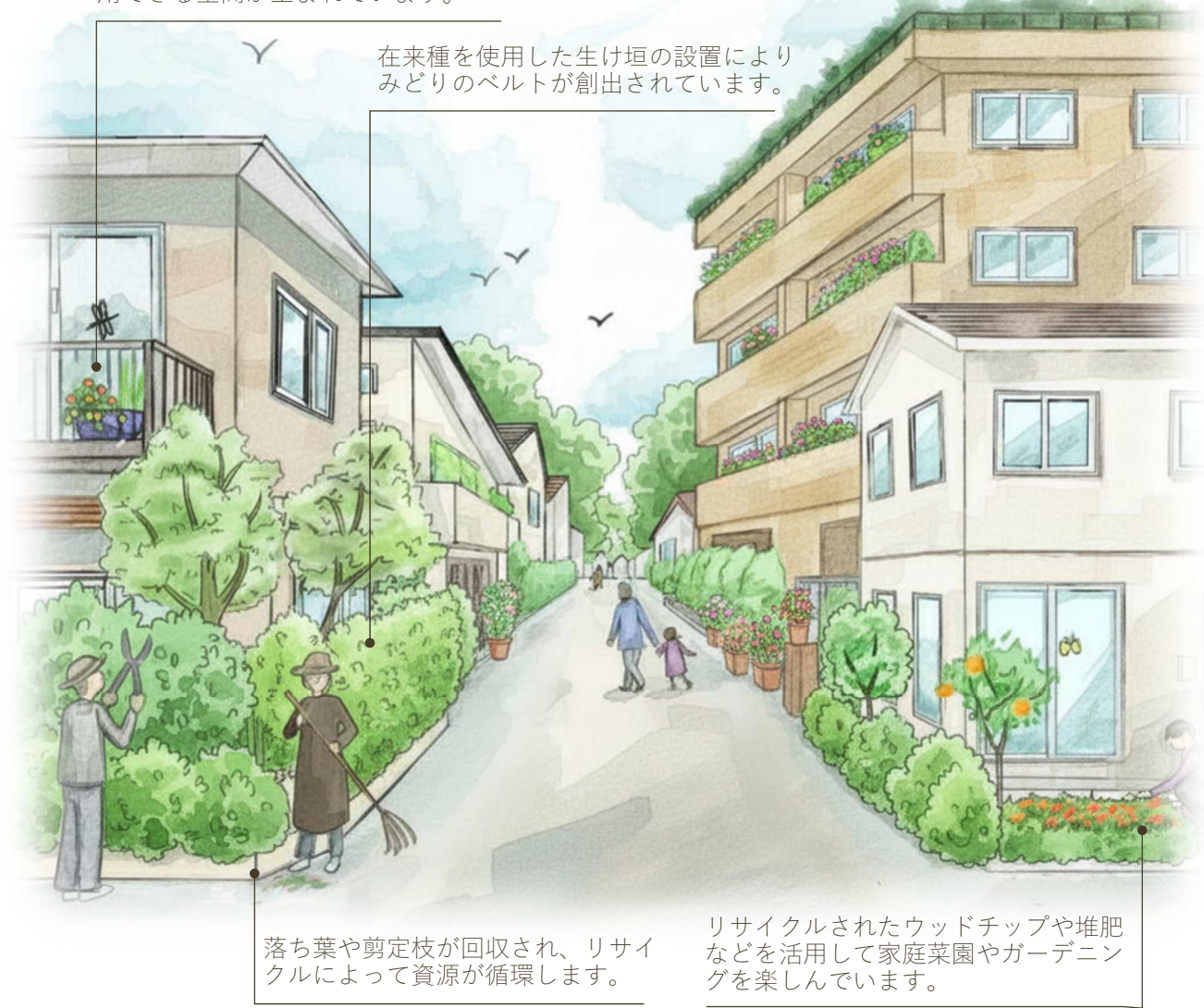
区民、事業者、行政との協働によるみどりの取組で、実現するまちのイメージを、「住宅街」「商店街」「屋敷林・農地」「公園」「学校」「河川」「道路」に分けて共有します。

### [住宅街のみどり]

生け垣や花壇など身近なみどりの創出によって住宅街が魅力的なまちとなり、歩いて楽しい散歩道が作り出されています。また、それぞれの緑化は、雨水の浸透や水循環の改善にも役立っています。

各家庭では、ガーデニングや家庭菜園を楽しんだり、落ち葉をリサイクルしたりと、世代を超えた活動が盛んです。みんなで協力しながら、みどり豊かな住環境を育て、守っています。

みどりがあることで、生きものが利用できる空間が生まれています。



在来種を使用した生け垣の設置によりみどりのベルトが創出されています。

落ち葉や剪定枝が回収され、リサイクルによって資源が循環します。

リサイクルされたウッドチップや堆肥などを活用して家庭菜園やガーデニングを楽しんでいます。

## [商店街のみどり]

商店街では、壁や屋上をみどりで彩ったカフェで、みんながゆったりとくつろいでいます。

お店の軒先には、季節の花が咲き、歩くだけで楽しくなるような散歩道が広がっています。

そんな「また来たくなる」みどりいっぱいの商店街が、たくさんあります。

駐車場の緑化や、地域に昔からある植物（在来種）を使った植栽、雨水を活かした「雨庭」など、環境にやさしい工夫も進んでいます。

区と商店街の事業者等が力を合わせたこれらの取組により、生きものや水循環にも配慮した、心地よいみどりの空間づくりが商店街全体に広がっています。

周辺の建物やみどりと調和した色彩やデザインの建物にすることで、一体感のある魅力的なまちなみが形成されています。

小さなスペースにもみどりを設置することで、うるおいのあるまちなみが形成されています。



接道部を緑化することでまちなみのみどりが豊かになります。

### [屋敷林・農地のみどり]

屋敷林では、ボランティアの方々が剪定や落ち葉掃きを行うなど、みんなが協力しながら、武蔵野らしい原風景を守っています。こうした貴重なみどりは、「いこいの森」（市民緑地契約制度）の利用やボランティアなどの保全活動を通じてのふれあい、区民農園での農業体験、農業祭での地元野菜の販売購入（地産地消）などに関わることで、その大切さが、次の世代へと受け継がれています。

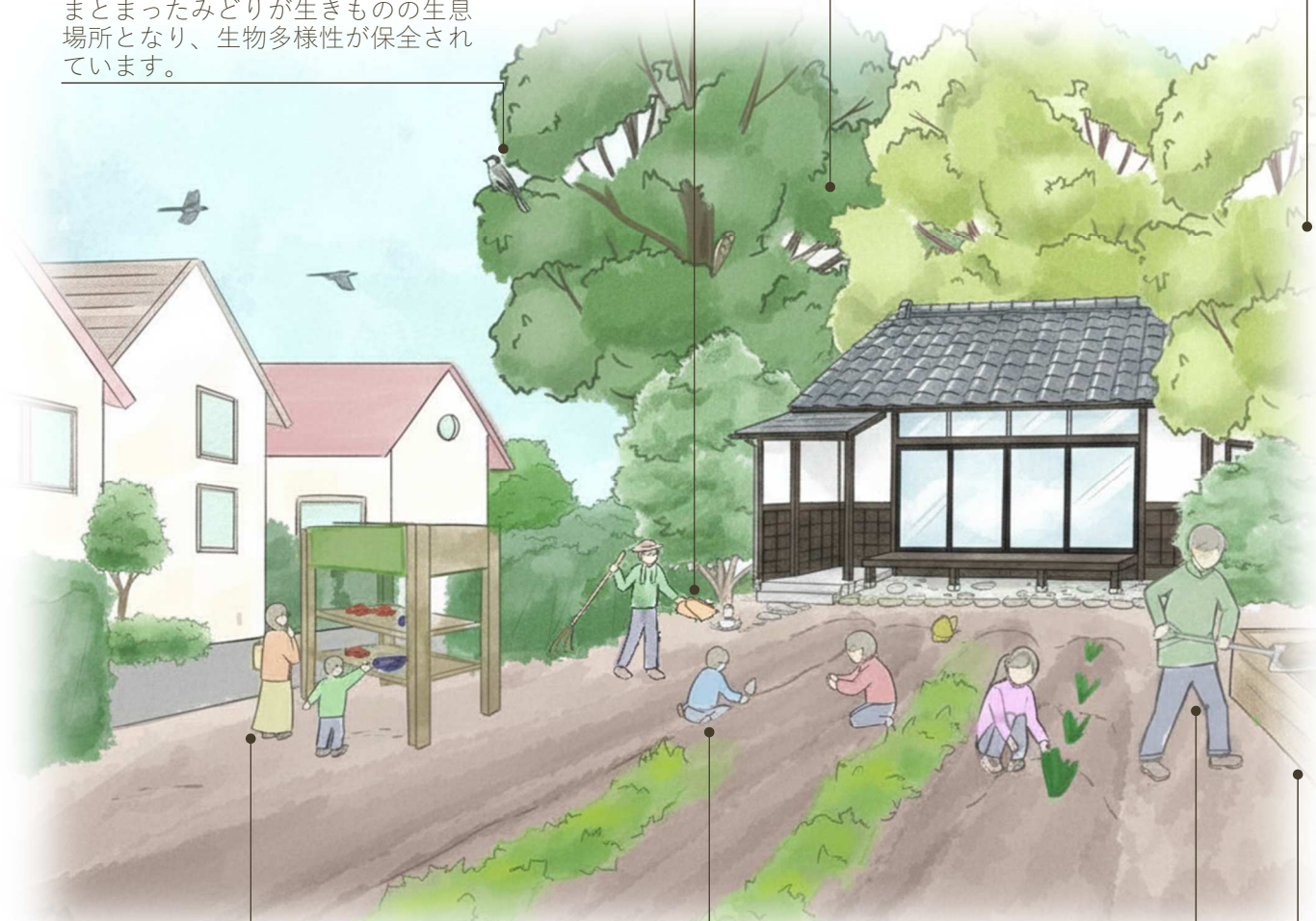
みんなで関わりながら、地域の自然を守り育てていく、そんなあたたかいつながりが、屋敷林や農地のみどりを支えています。

保護樹林として登録され、まとまったみどりが守られています。

屋敷林・農地の大切さをボランティアなどの保全活動を通じてPRし、屋敷林の景観が守られています。

まとまったみどりを保全することで夏場の木陰をつくり人々や地域に涼しさを提供しています。

まとまったみどりが生きものの生息場所となり、生物多様性が保全されています。



農作物づくりを通じて区民同士の交流が生まれています。

体験農園などにより農地とふれあうことで、区民が農業や屋敷林に親しむきっかけができています。

地域で育てられた作物を地域で消費することで、区民が地域の農地に関心を持つ機会が生まれています。

落ち葉や刈り取った草を腐葉土・堆肥として活用し、みどりのリサイクルが行われています。

## [公園のみどり]

公園では、ボランティア団体や区民の皆さんが、みどりの維持管理に参加しています。

こうした活動により、世代を超えての交流や憩いの場が育まれています。また、公園の整備では、説明会やオープンハウス型の懇談会への区民の参加により、区民の声を聞きながら公園づくりが進んでいます。

ビオトープなどのグリーンインフラを活かした環境学習や地域でのイベントなどが行われ、区民のニーズに合わせた公園の使い方が広がっています。公園は、みどりを楽しむだけでなく、地域のつながりを育てる大切な場となっています。

ビオトープや池などにより生きものの生息場所や移動経路が確保されています。

広い空間があることで子どもたちが遊ぶ場所やコミュニティ創出の場所が生まれています。

大きな木があることで、木陰で人や野鳥が休憩できます。



花壇で花を育てることで、季節を感じられる場所になっています。

ベンチや遊具などの公園施設や樹木が安全な状態に保たれ、区民が安心して利用できる公園になっています。

公園の一面に雨庭をつくり雨水浸透の促進が図られています。

## [学校のみどり]

学校では、地域活動団体等と協力して、ビオトープでの生きもの観察など、自然を活かした環境学習が行われ、地域課題に自然の力を取り入れる「グリーンインフラ」の活用を通じて、子どもたちはみどりの大切さを体感しています。また、「落ち葉感謝祭」や「炭焼き体験会」などのイベントへ参加することで、地域の人たちと一緒にみどりについて学び交流しています。

子どもたちと地域のボランティアの方々がつながることで、学校は地域と次世代をつなぐ、みどりの学びの場となっています。

敷地内を緑化することで、周辺のみどりにつながるのあるみどりが創出されています。

屋上緑化や緑のカーテンを設置することで、冷房だけに頼らない暑熱対策がされています。

ビオトープを通じて環境について学び、地域の方々と子どもたちの交流が生まれています。

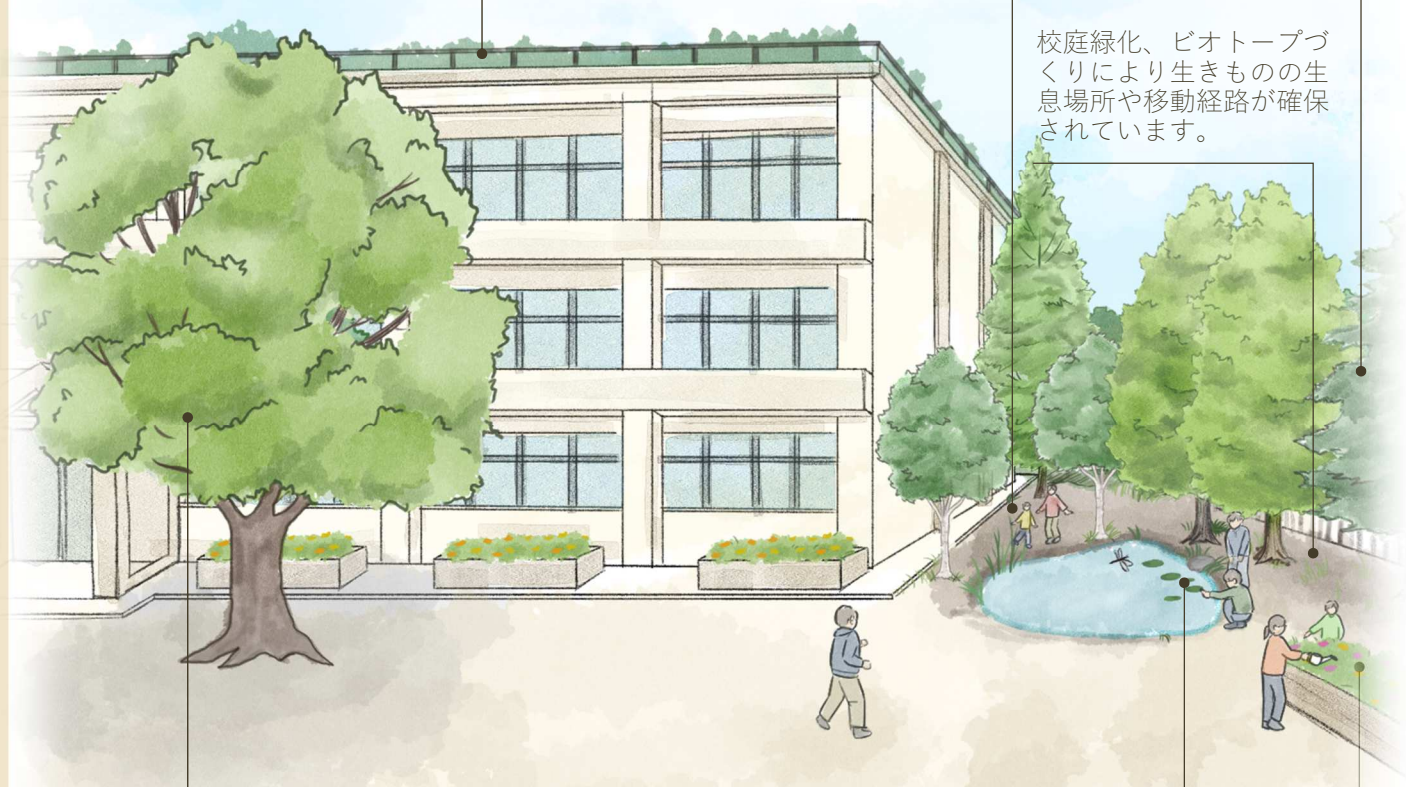
校庭緑化、ビオトープづくりにより生きものの生息場所や移動経路が確保されています。

ビオトープを設置することで、子どもたちがみどりや生きものに触れ、学ぶ機会が生まれています。

シンボルツリーや大きな木を植えることで木陰が確保されています。

花壇で花を育てることで、子どもたちがみどりに親しみふれあえる機会が生まれています。

雨水が浸透、貯留されています。



## [河川のみどり]

東京都や近隣の自治体と協力して、河川改修事業により整備された親水施設や護岸の緑化を進め、自然に近い水辺の空間を創出するとともに、区内の湧水を守る取組が行われています。

また、地域の方々やボランティア団体による清掃活動や外来種の駆除などを通じて、生態系が保全され、多様な生きものが棲む水辺環境を守り、次の世代へと引き継がれています。

みんなで関わりながら、水とみどりが調和する、心地よい河川空間を育んでいます。

河川沿いを散歩したりジョギングしたりすることで、みどりとふれあいながら健康づくりが行われています。

護岸が緑化されることで、生きものが生息できる環境が創出されています。

ゆとりのある空間があることで、区民の憩いの場が創出されています。

水鳥の棲む水辺空間を創出し、生きものとの共生を学ぶ機会ができています。

河川沿いを緑化することで、みどりのベルトづくりの形成が図られています。

河川の清掃活動を通じて多様な生きものの生息環境や、美しい河川の景観が守られています。

## [道路のみどり]

街路樹や植栽帯が彩る道路では、四季を感じながら、木陰のある心地よい歩行空間が形成されています。歩いているだけで気持ちがやわらぐ、そんなみどりあふれる道を、みんなで一緒に育て守っています。あわせて、安全で安心して歩ける歩行空間を確保できるよう適切な維持管理をしています。

みどりがあることで、まちの景色が美しく、環境にもやさしい歩く楽しみが広がる道路空間となっています。

街路樹などの緑化により生きものの生息場所や移動経路となり、生物多様性の保全が図られています。

街路樹は剪定等の適正な維持管理により歩車ともに安全で通行しやすい通りとなっています。

街路樹があることで木陰が生まれ、人々が快適に歩きやすい道になっています。

道路沿いを緑化することで、みどりのベルトづくりの形成が図られています。

植栽帯を作ることで、雨水が浸透されています。

店先の小さなスペースにもみどりを設置することで、うるおいのある道路空間が形成されています。

区民自らまちのみどりに関心を持ち、異常があれば報告することで、樹木が健全に保たれています。



▲大田黒公園ライトアップ